

平成 24 年 3 月 30 日制定
平成 25 年 3 月 7 日修正
平成 26 年 7 月 11 日修正

新潟県立歴史博物館の運営方針 (平成 24 年度～平成 28 年度)

1 目的

現在、当博物館は「新潟県立博物館の運営方針」に基づき、資料収集・保管、展示等の諸活動を行っており、この「運営方針」は平成 23 年度が終期となっている。

今後ともよりよい博物館づくりを目指すためには、博物館の諸活動の目的を明確化・共有化し、広く県民に提示して不断に活動の検証と改善を行っていくことが引き続き必要である。

こうしたことから、当館がその活動の現状やこれに対する評価、あるいは社会情勢の推移を踏まえて、県民から託された使命を引き続き果たしてゆくため、今後 5 年間 (H24～H28) を計画期間とした博物館活動の指針となる新たな「運営方針」を定める。

2 当博物館活動の基盤

(1) 博物館条例

当博物館は、歴史・民俗および縄文文化に関する県民の教養を高め、県民の学術・文化の振興に資する社会教育施設として平成 12 年 8 月に設置された。資料収集・保管、展示など様々な博物館活動を実施している。

(2) 上位計画

新潟県「夢おこし」政策プランでは、その基本理念である「将来に希望の持てる魅力ある新潟県の実現～住んでみたい新潟、行ってみたい新潟～」に向けて、「地域の魅力を高める文化・スポーツの振興」を図る施策を展開することを謳っている。

また、新潟県文化プランでは、政策プランを文化面から推進するため「地域文化の保存・継承・活用」や「文化を通じた交流・連携の拡大」などに取り組みむこととし、そのために県は専門的・広域的な推進役を果たすものと位置づけられている。

(3) 当博物館の運営体制

当館は、開館当初は県文化振興財団に管理運営委託された。平成 18 年度、指定管理者制度の導入に伴う管理運営形態の検討の結果、県の直営とすることとされたが、同時に「指定管理者制度と同様の創意工夫」も求められてい

る。

また、博物館の効率的運営のため、平成 18 年度に「博物館の経営改革スケジュール（いわゆる「中長期計画」）」等を定めるとともに、平成 19 年度には「館長 5 か年計画」が示された。平成 20 年度には、これらを統合して現在の運営方針を定めた。

さらには、博物館が行う諸活動の検証・評価を行うため、平成 18 年度から博物館評価委員会が設置された。

3 当博物館を取り巻く情勢

当博物館を取り巻く情勢として、主に次のものが挙げられる。

(1) 全般的な社会情勢

- ・景気低迷が続くなか、国・地方の財政状況は厳しさを増している。
- ・情報通信技術の急速な発展と普及に伴って情報の受発信の在り方が変化してきている。
- ・余暇時間の増大と高齢化に伴って生涯教育機会への要請が高まっている。
- ・本県においては、全国に先行する人口減少が進むなか、県全体の活力低下が懸念されている。

(2) 博物館を取り巻く情勢

- ・経済状況、余暇の多様化などを反映して、全国的に閉館館数が増加し、また、館あたり入館者数は頭打ちの状況となっている。
- ・その一方で、生涯学習社会の進展とともに、博物館が利用者、地域住民の要請に応えた運営を行っていくことがますます必要となっている。
- ・本県においては、中越大震災からの復興への取組が進み、またその後も度重なる災害を経験するなかで、歴史資料を次世代へと引き継ぐ取組が求められている。

4 当博物館活動の現状

当館は、平成 12 年の開館以来、縄文を中心とした本県の歴史民俗に関して、「収集・保管」、「展示」、「調査・研究」、「交流・普及」、「情報発信」の 5 つの機能を果たす活動を展開してきた。

具体的には、資料の収集・保存に努めるとともに、研究調査を館活動の根幹としつつ常設展示や年 4 回程度の企画展を実施してきた。また、館内での講座・体験活動や館外活動、きめ細かな団体案内・展示解説等を積極的に実施し、学校教育・生涯教育の一翼を担う場としても活用されている。

さらには、博物館評価委員会からの提言を受けて、平成 20 年度から地域史研究ネットワーク（歴史学・民俗学・考古学を主対象とした県内の博物館・文

化行政関係者および研究団体などによる刊行物・展示会・研究会等の情報交換の場づくり)の運営、平成21年度から博物館ボランティアを導入などの新たな取組を行っている。

一方、観覧者数については、平成16年度以降は6万人台前後の横ばいで推移している。平成22年度は約52,000人と落ち込んだ。

予算や組織が縮減傾向にあるなか、「魅力ある博物館づくり」を目指して、一段と効率的な博物館運営が求められている。平成23年度には、参事ポスト(賑わい創出担当)および経営企画課の新設(管理課と交流普及課の統合)を内容とする組織改正を行った。

5 博物館に対する評価

(1) 夢おこし政策プランにおける評価

平成23年9月に実施した新潟県「夢おこし」政策プランの中間評価では、県の文化・スポーツ施策について「順調」との評価を受けた。当館については、「県民の歴史文化への関心にどのような働きかけを行っているのか、という視点から、施設の使命に照らして事業展開を多面的に評価分析していただきたい」との提言を受けている。

(2) 博物館評価委員会における評価

- 外部評価委員会による直近の評価である平成20年度の館活動に対する評価報告書では、次のような評価を受けている。

歴史博物館評価委員会 平成20年度評価報告書の概要

1 評価

- これまでの計画等を統合した運営方針ができたことは評価。
- PDCAサイクルも徐々に実現。ミュージアム・ナビ(博物館自己評価・目標管理システム)を活用し始めたといえる。
- 館内外の相互理解を深めながら日夜努力していると思われる。
- マスコミへの情報提供は評価。
- 攻めの姿勢は以前には見られなかったもので、持続・発展が望まれる。
- 展示協力件数も大幅に増えていることは評価。
- 施設の雰囲気、美観は管理費を削減しながらも高い満足度を得ている。
- 館の顔ともいえる案内説明員も、その役割を果たしている。
- 5回の企画展で「新たに感動や発見があった」が80%以上というのは特記すべき。
- 外部研究費が目標を上回ったことは評価。

2 提言・意見等

- 展示を一層わかりやすいものとするよう努力すべき。
- ボランティア、友の会など館の支援体制の整備を進めるべき。
- 県民との連携・協働に一層取り組むべき。
- 指標や評価の基準をさらに検討すべき。
- CS(利用者満足)とともにES(従業員満足)にも留意すべき。

3 館運営上留意すべきこと

- 限られた予算・人員のなか、他との協働をどこまで拡大すべきか自己点検が必要。
- 今後も、「基盤となる活動」を地道に、かつ積極的に展開していくことが必要。
- 科学研究費は、その組織のステータスを示すものであり、レベルを維持・伸張していくことが必要。

- ・ また、平成 22 年度の評価委員会では、「魅力ある博物館づくり」をめざし、館活動の現状にとらわれることのない様々な提案を受けた。

6 博物館の基本理念

(1) 基本的な考え方

- 博物館の目的は「新潟県の歴史及び民俗並びに縄文文化に関する県民の教養を高め、県民の学術及び文化の発展に寄与する」ことにある。
この目的をよりよく達成するためには、これまで記載した現状・評価等を踏まえ、全職員が「博物館は利用者満足が起点」であることを常に意識し、博物館の基本的活動である資料収集・保存、展示、調査・研究等を着実に進める必要がある。そしてその成果を広く還元すべく、より多くの県民にご来館いただき、あるいは様々な博物館活動に触れていただくための創意工夫に努めることが不可欠である。
- また、地域の関係機関から頼られる拠点施設としての活動を充実するとともに、地域文化を発信する観光拠点としても認知されることにより、多面的機能を有し、かつ、県内外及び国際的にも開かれた博物館としての地位を確立することが必要である。
- これらの取組を着実に推進し、厳しい財政状況の中にあっても、県民から理解され支持される存在として発展していく必要がある。

(2) 当博物館の基本理念

これらの基本的な考え方に基づき、博物館の基本理念を次のとおりとする。

- 県民の営みの証である歴史資料を記録・整理・保存し、新たな歴史像*を県民とともに創造していきます。
- 人々と連携しながら、現在から未来へ、地域から世界へと県の価値を発信していくことを使命とします。

こうした活動を通して

『より県民に愛され、利用され、“にぎわいのある博物館”』を実現します。

※「新たな歴史像の創造」

博物館の活動を通じて再発見される新潟県の価値や魅力が、新潟県の歴史についての新鮮なイメージとして、県民の皆さん一人一人の中で実を結んでいくこと

7 博物館活動の目標

この理念に基づいて活動を進めていくにあたっての成果指標として、博物館の利用者数、及び利用者の満足度を掲げる。

指標

- 1 博物館利用者数
- 2 博物館利用者の満足度

指標		現状値(平成23年度)	目標
1 利用者数	① 利用者総数 (政策プラン指標)	(単年度) 117,425 人	各指標を増加させる
		(前計画期間平均) 123,348 人	
	② 観覧者数	(単年度) 60,788 人	
		(前計画期間平均) 63,862 人	
2 満足度 (単年度)	① 来館者満足度	97%	各指標を維持・向上させる
	② 企画展	93%	
	③ 講座等	講座・講演会 91% 体験コーナー 99%	
	④ 来館者応対	97%	

〔各指標の数値について〕

1-① 利用者総数

博物館が行う以下の活動・機能ごとの利用者を加算した数値
 (常設展+企画展+講演会・講座+体験コーナー+その他イベント等+
 館外活動(出前講座・授業、移動・巡回展))

1-② 観覧者数

常設展及び企画展のチケット販売数+無料観覧者・視察者

2-①～④ 満足度 利用者・参加者等のアンケート回答に基づく

8 博物館の活動方針

上の目標と併せて、博物館の使命達成と基本理念の実現に向けた活動を行っていくため、当博物館が有する機能や主な取組分野ごとに以下のとおり活動方針を定める。

- (1) 収集・保管
 - ・本県の歴史を明らかにするために欠かすことのできない資料の収集・整理に努めると共に、そのデータ化を推し進める。
 - ・良好な資料保存環境を維持する。
- (2) 展示
 - ◇ 常設展示
 - ・設備・機器・資料の適切な管理に努め、良好な見学環境を維持する。
 - ・常設展示の十分な活用を推し進める。
 - ◇ 企画展示
 - ・調査研究の反映や収蔵資料の活用によって魅力ある企画展を実施する。
 - ・集客を意識し、県民の関心を反映した企画展示に努める。
- (3) 調査・研究
 - ・本県の歴史系博物館の拠点として、質の向上を目指す。
 - ・館活動の根幹である調査研究の成果の県民への還元に努める。
- (4) 教育・普及
 - ◇ 学校教育
 - ・学校教育に一層活用される博物館を目指す。
 - ・新潟県民としての自覚と誇りを持つ教育に貢献する。
 - ・館内及び館外活動の充実を図る。
 - ◇ 社会教育
 - ・県民の知識・教養を高め、県民が豊かな社会生活を営むための機会や情報を提供する。
 - ・館内及び館外での活動の充実を図る。
- (5) 連携
 - ◇ 学術面の連携
 - ・県内各地の歴史・文化的価値の再発見と活用を支援する。
 - ・幅広い団体とのネットワークを強化する。
 - ◇ 地域づくりに向けた連携
 - ・歴史を通じた県内各地の地域づくりに貢献する。
 - ・近隣の施設や様々な団体との連携を深める。
- (6) 情報発信
 - ・当館の活動について、県民認知度を高める。
 - ・本県の歴史・文化的魅力を県外・海外にアピールすることで、交流人口の増大への寄与を図る。
- (7) 管理運営
 - ・運営方針を館職員で共有し、方針を意識しながら博物館活動を進める。

- ・目標の実現に向けた効率的な運営を行う。
- ・来館者への安全・安心の提供に努めるとともに、来館者などの関心や視線に常に注意を向ける。

9 活動方針に基づいた取組の実施・進捗管理

上記の活動方針の達成を目指した博物館活動が確実に行われるよう、取組分野ごとの今後5年間の「主な実現方策」、及び5年後の到達目標となる「評価指標」を定める。(別表)

また、各年度の具体的な取組については、今後の社会情勢の推移、県民や利用者のニーズの変化、現実の館運営体制などに応じたものとする必要があるため、本計画の「活動方針」・「主な実現方策」のもと、各年度において検討する。

こうした博物館活動の取組について、毎年度、館内での自己評価を行うとともに、評価委員会からの評価を受ける。これらを通じてPDCAサイクルによるマネジメントに取り組む。

活動の評価にあたっては、博物館の使命達成の観点から多面的に分析を行う。

10 更なる充実に向けての課題

当博物館が更なる充実した活動を行っていくには、上に掲げた活動方針の達成に併せて、次に記載するような課題に取り組んでいく必要がある。これらの課題は、外部要因に大きく依存するものや、博物館単独では解決が困難なものであるが、当館として可能な限りの進展を目指して取り組む。

- 博物館資料のデータベース化の推進
- 施設・設備の大規模改修等による展示環境・資料収蔵環境の改善
- アクセス改善やレストラン・ショップの継続的営業による来館者サービス向上
- 博物館の人事・組織体制の充実
- 外部団体や支援者との協働推進

新潟県立歴史博物館運営方針(平成24年度～平成28年度) 取組分野ごとの活動方針とその進捗管理

機能	取組分野	活動方針	主な実現方策	評価指標		
				項目	現状値(H23)	目標値(H28)
収集・保管	収集・保管	<ul style="list-style-type: none"> 本県の歴史を明らかにするために欠かすことのできない資料の収集・整理に努めるとともに、そのデータ化を推し進める。 良好な資料保存環境を維持する。 	<ul style="list-style-type: none"> 資料の収集の継続と収集資料の整理を推進する。 IPMによる環境管理を継続する。 	収蔵資料目録の刊行準備	1目録	1目録
				データベース基礎資料作成	継続	継続
展示	常設展示	<ul style="list-style-type: none"> 設備・機器・資料の適切な管理に努め、良好な見学環境を維持する。 常設展示の十分な活用を推し進める。 	<ul style="list-style-type: none"> 日常の適切な維持管理と定期的な資料更新を継続する。 より柔軟な展示と活用方法の工夫に努める。 	新規展示・交換展示資料	80点	80点
				ワンポイント解説	420人	500人
	企画展示	<ul style="list-style-type: none"> 調査研究の反映や収蔵資料の活用によって魅力ある企画展を実施する。 集客を意識し、県民の関心を反映した企画展示に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> 年4回程度の企画展の実施を目標とする。 入場者の満足度を高める。 	企画展回数	4回	4回
				満足度	90%	90%
調査・研究	調査・研究	<ul style="list-style-type: none"> 本県の歴史系博物館の拠点として、質の向上を目指す。 館活動の根幹である調査研究の成果の県民への還元に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> 総合・個別研究費などを有効に活用した研究活動を推進し、その成果を県民に還元する。 講座参加者の満足度を高める。 	外部研究費取得件数	5件	6件
				学会発表等件数	10回	16回
				論文等執筆件数	58回	70回
教育・普及	学校教育	<ul style="list-style-type: none"> 学校教育に一層活用される博物館を目指す。 新潟県民としての自覚と誇りを持つ教育に貢献する。 館内及び館外活動の充実を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 教育機関への施設利用の周知。 体験学習・体験活動の新たなプログラムの開発・導入に努める。 	県内学校団体の受入率	34%	35%
				体験活動の新プログラム導入件数	2件	1件以上
				体験コーナー参加者満足度	99%	90%以上
	社会教育	<ul style="list-style-type: none"> 県民の知識・教養を高め、県民が豊かな社会生活を営むための機会や情報を提供する。 館内及び館外での活動の充実を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 社会教育機関との連携に努める。 館内講座・出前講座を継続する。 ボランティアの受入の推進。 	出前講座の参加者満足度	96%	90%以上
				館員の講座・講演会の参加者満足度	90%	90%
ボランティアの活動延人数	182人	190人				
連携	学術面の連携	<ul style="list-style-type: none"> 県内各地の歴史・文化的価値の再発見と活用を支援する。 幅広い団体とのネットワークを強化する。 	<ul style="list-style-type: none"> 新潟県の中核機関として、地域史研究や資料保存活動を推進する。 県内外の他館および団体と共催しての巡回展の実施に努める。 	地域史研究ネットワークの拡大	15団体	20団体
	地域づくりに向けた連携	<ul style="list-style-type: none"> 歴史を通じた県内各地の地域づくりに貢献する。 近隣の施設や様々な団体との連携を深める。 	<ul style="list-style-type: none"> 各種団体との事業共催等による連携を模索する。 	移動展示・展示協力	継続	継続
	地域団体の活動への参画件数	11件	15件			
情報発信	情報発信	<ul style="list-style-type: none"> 当館の活動について、県民認知度を高める。 本県の歴史・文化的魅力を県外・海外にアピールすることで、交流人口の増大への寄与を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> リピーターや新規来館者の拡大に向けた広報の展開。 ITやマスコミを活用した情報発信の充実を図る。 県外客誘致のための広報に努める。 観光事業団体との連携を強化し誘客に努める。 	新聞・雑誌・テレビ等に報道掲載された件数	206/60/146件	216/65/156件
				館ホームページへのアクセス件数	64,971件	90,000件
				観光団体による来客者数	725人(23件)	400人
管理運営	管理運営	<ul style="list-style-type: none"> 運営方針を館職員で共有し、方針を意識しながら博物館活動を進める。 目標の実現に向けた効率的な運営を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 自己評価・外部評価の実施。 評価結果の的確な反映によるPDCAサイクルの確立。 	全体収支比率	6%	8%
				(評価指標の達成率)	-	(100%)

注1) 評価指標の目標値は、館活動に投入されている現在のリソース(予算・人員等)が、計画期間において維持されることを前提とする。

注2) 活動の評価にあたっては、その内容面を含めて、博物館の使命に照らして多面的に分析を行う。